

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次）国際文化学部 国際文化学科

【設置の趣旨・目的等】

1. 設置の趣旨等を記載した書類（P4）の①「（2）育成する人材像」では「基礎的なデータサイエンスのリテラシーを身につけた人材を養成する」ことを掲げるとともに、「1）卒業認定・学位授与の方針：ディプロマ・ポリシー」に記載のあるDP2では「データサイエンス系科目の学びを活用」することを掲げている。しかしながら、設置の趣旨等を記載した書類（資料）P3の資料1（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの関連図）においてDP2に対応するとされているカリキュラム・ポリシーであるCP2では、「データサイエンス系科目群の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることもできる」とされており、全ての学生がデータ利用の基礎的能力を身につけることは想定していないようにも見受けられる。本学科が掲げるカリキュラム・ポリシーが、育成する人材像やディプロマ・ポリシーと整合したものとして適切に設定されたものとなっているか疑義があることから、育成する人材像やディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの整合性について改めて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項）・・・3～4, 8～21

【教育課程等】

2. 審査意見1のとおり、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについて疑義があるため、教育課程全体の妥当性について判断することができない。このため、審査意見1及び以下に例示する点への対応を踏まえて、本学科の教育課程が、適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系性が担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（1）設置の趣旨等を記載した書類（資料）P8の資料4（カリキュラムマトリックス）では、CP2のうち、「データサイエンス系科目群の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることもできる」部分をCP2-2とし、これに対応した科目として「データサイエンス基礎科目」を掲げているが、「データサイエンス基礎科目」に配置された「ICTリテラシ」など全ての科目のシラバスを参照したところ、データサイエンスに関する内容は含まれていないように見受けられることから、「データサイエンス基礎科目」をCP2-2と関連付けていること及びその名称について疑義がある。「データサイエンス基礎科目」の名称を改めるか、カリキュラム・ポリシーに掲げる資質・能力を適切に身につける編成となっていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて関係する記載を適切に改めること。

(2) 設置の趣旨等を記載した書類(資料) P 3の資料1 (アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの関連図) ではDP 1に対応したカリキュラム・ポリシーがCP 2であることが説明されている。また同資料P 8の資料4 (カリキュラムマトリックス) では、CP 2のうち、「データサイエンス系科目群の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることもできる」部分をCP 2-2とし、これに対応した科目として「データサイエンス系科目」を掲げているが、「データサイエンス系科目」に配置された「ミクロ経済学」や「マーケティング概論」にはデータサイエンスに関する内容は含まれていないように見受けられる。また、「データサイエンス系科目」は選択必修であり、上記2科目のみを履修することによっても卒業要件を満たすことができる。さらに、審査意見2 (1) のとおり、同じくCP 2-2に対応するとされている「データサイエンス基礎科目」にはデータサイエンスに関する内容を含まれていない。このことから、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を確実に修得することができる教育課程が適切に編成されているかについて疑義があることから、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに掲げる「データサイエンス」に関する資質・能力を適切に身に付けることができる教育課程の編成となっていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・5~21

【教員組織】

3. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として専任の教授又は准教授が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。(是正事項)・・・22

4. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(改善事項)・・・23

(是正事項) 国際文化学部 国際文化学科

【設置の趣旨・目的等】

1. 設置の趣旨等を記載した書類（P 4）の①「(2) 育成する人材像」では「基礎的なデータサイエンスのリテラシーを身につけた人材を養成する」ことを掲げるとともに、「1) 卒業認定・学位授与の方針:ディプロマ・ポリシー」に記載のあるDP 2では「データサイエンス系科目の学びを活用」することを掲げている。しかしながら、設置の趣旨等を記載した書類（資料）P 3の資料1（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの関連図）においてDP 2に対応するとされているカリキュラム・ポリシーであるCP 2では、「データサイエンス系科目群の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることもできる」とされており、全ての学生がデータ利用の基礎的能力を身につけることは想定していないようにも見受けられる。本学科が掲げるカリキュラム・ポリシーが、育成する人材像やディプロマ・ポリシーと整合したものとして適切に設定されたものとなっているか疑義があることから、養成する人材像やディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの整合性について改めて具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

審査意見 1 への対応

国際文化学部が目指す地域研究では様々な実践的な能力が求められ、語学力とならび、統計処理などの技法の基礎訓練を受けることが必要である。今や世界諸地域の情報はインターネット上でほぼリアルタイムで入手することが可能となっており、これらの情報処理能力を高めるために情報リテラシーの修得は必須である。

また、国際文化学部で必要なデータ利用の基礎的能力とは、国内外の諸地域において実地調査あるいはオンラインで得た人口や生産など様々な社会・経済のデータを適宜処理し、可視化し、時にはアプリケーションを利用して解析するスキルであり、これは本学部の学生全員が身につけるべき能力である。これらのことと審査意見とを勘案し、DP と CP の整合性を図るため下記の具体的な対応を取ることとする。

(対応) その1 : 科目構成と履修方法の変更

審査意見を踏まえ、養成する人材像と、CP 及びDP との整合を持たせるために、あらたに本学科科目として情報系基礎科目（旧データサイエンス基礎科目）「統計学基礎」を開設し、「ICT リテラシ」とともに必修とし、当初基礎科目群に選択必修としていたプログラミング入門Ⅰ・Ⅱ、プログラミング演習を選択科目群である社会情報系科目（旧データサイエンス系科目）に移し、ここに「データハンドリング」を加えることとした。

(対応) その2 : 区分名称の変更

審査意見を踏まえ、CP 及びDP との整合を持たせるため、上記(対応) その1 のとおり科目構成及び履修方法を変更した。そのため、実態に近い区分名称として「情報系基礎科目」と「社会情報系科目」を使用することとした。具体的には「基礎科目」の下位に「専門基礎科目（必修）」と「データサイエンス基礎科目（選択必修）」とあった科目区分名について、後者を「情報系基礎科目」として必修とし、「専攻科目」の「データサイエンス系科目」を

「社会情報系科目」とする。

(対応) その3 : CP2の表現の変更

CP2「データサイエンス系科目群の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることもできる」を「情報系基礎科目と社会情報系科目群の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることができる」とする。

(対応) その4 : DP2の表現の変更

DP2「さらにデータサイエンス系科目の学びを活用し～」を「さらに社会情報系科目の学びを活用し～」とする

以上をまとめると、国際文化学部で提供が必要なデータ利用の技法とは、国内外の諸地域において実地調査あるいはオンラインで得た人口や生産など様々な社会・経済のデータを適宜処理し、可視化し、時にはアプリケーションを利用して解析する方法である。学生は統計学基礎を、学科が提供する基礎科目として履修し、さらに、情報デザイン学科が提供する科目群で習得するものとする。

情報デザイン学科の協力によって開講される科目群の一つが、2科目を必修とする「情報系基礎科目」である。①「ICTリテラシ」はこれからのデジタル社会の一員として必要なツールの使用方法とセキュリティや倫理などの知識を学ぶ科目であり、情報技術やデータ分析技術を扱う者に求められる入門レベルの科目として提供される。②「統計学基礎」は人文社会科学のアカデミックな分野で今後必須能力となる、データ分析の手法を身につける基礎的な科目であり、国際文化学科の科目として開講される。ここでは、さまざまなデータの集まりを正しく扱い、適切に分析し、検証・議論できるすべを学ぶ。

専攻科目としての「社会情報系科目」は、国際文化学部が目指す地域研究分野で有用とされるデータ処理の習得を目的とする科目と経営・経済系の社会科学系の科目で構成される。そのなかには、地理空間上の位置に結び付けて様々なデータを扱うGISの原理とそのデータの可視化技術（アプリケーションの運用）について講義する、地域研究に有用な「地理情報システム」が配置される。また、情報デザイン学部の基礎科目として1年次に配置されている「情報数学Ⅱ」（集合・数列・行列・ベクトル・確率等の数学的記法の説明と運用）・「情報数学Ⅲ」（関数・微分・積分・多変数関数・偏微分等の数学的記法の説明と運用）は文系学生にも理解できるよう、時間をかけて丁寧な講義が予定されている。これら二科目の基礎の上により高度な「統計学Ⅱ」を設けている。さらに、データの前処理や加工、可視化、解析を講義する「データハンドリング」と、基礎科目から移動したプログラミング科目をレベル別に三種置いている。これらに加え、経営・経済的アプローチにより、国内外の諸地域社会の現状を把握し、課題発見能力を涵養するため、「マイクロ経済学」、「計量経済分析」や「マーケティング概論」、「企業データ論」などの社会科学系科目もこの枠で提供する。

【教育課程等】

2. 審査意見1のとおり、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーについて疑義があるため、教育課程全体の妥当性について判断することができない。このため、審査意見1及び以下に例示する点への対応を踏まえて、本学科の教育課程が、適切なディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、修得すべき知識や能力等に係る教育が網羅され、体系的に担保された上で、適切に編成されていることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 設置の趣旨等を記載した書類(資料) P8の資料4(カリキュラムマトリックス)では、CP2のうち、「データサイエンス系科目群の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることもできる」部分をCP2-2とし、これに対応した科目として「データサイエンス基礎科目」を掲げているが、「データサイエンス基礎科目」に配置された「ICTリテラシ」など全ての科目のシラバスを参照したところ、データサイエンスに関する内容は含まれていないように見受けられることから、「データサイエンス基礎科目」をCP2-2と関連付けていること及びその名称について疑義がある。「データサイエンス基礎科目」の名称を改めるか、カリキュラム・ポリシーに掲げる資質・能力を適切に身につける編成となっていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて関係する記載を適切に改めること。

(2) 設置の趣旨等を記載した書類(資料) P3の資料1(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの関連図)ではDP1に対応したカリキュラム・ポリシーがCP2であることが説明されている。また同資料P8の資料4(カリキュラムマトリックス)では、CP2のうち、「データサイエンス系科目群の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることもできる」部分をCP2-2とし、これに対応した科目として「データサイエンス系科目」を掲げているが、「データサイエンス系科目」に配置された「ミクロ経済学」や「マーケティング概論」にはデータサイエンスに関する内容は含まれていないように見受けられる。また、「データサイエンス系科目」は選択必修であり、上記2科目のみを履修することによっても卒業要件を満たすことができる。さらに、審査意見2(1)のとおり、同じくCP2-2に対応するとされている「データサイエンス基礎科目」にはデータサイエンスに関する内容を含まれていない。このことから、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を確実に修得することができる教育課程が適切に編成されているかについて疑義があることから、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに掲げる「データサイエンス」に関する資質・能力を適切に身に付けることができる教育課程の編成となっていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

審査意見 2 への対応

新たに「統計学基礎」を「基礎科目」として配置して必修とし、「データサイエンス基礎科目」の名称を「情報系基礎科目」と変更し、「データサイエンス系科目」の名称を「社会情報系科目」とすることに変更した。このことにより、国際文化学科が目指す人材像と C P、D P との体系性が担保されたものになり、「データ利用の基礎的能力を身につけることができる (C P 2-2)」カリキュラムの編成となるとともに、「社会情報系科目の学びを活用し、専門的な手法によって深く考察し、判断し、簡潔に他者に伝える力を身につけている (D P 2)」人材を送り出すことが可能となると考える。詳しくは以下のとおりである。

(1) への対応：審査意見 1 への対応に示したとおりであるが、より具体的には、科目区分としての「データサイエンス基礎科目」の名称を改め、「情報系基礎科目」とし、2 科目 4 単位を必修とする。

審査意見を踏まえ、国際文化学科の学生にとってどの科目を情報系基礎科目として履修させるのが一番適切なのかを熟慮し、当初予定していた、4 科目 (ICT リテラシ、プログラミング入門 I・II、プログラミング演習) から選択必修 1 科目 (2 単位) とする履修方法を改め、「ICT リテラシ」と「統計学基礎」の 2 科目 (4 単位) を必修としたい。このことに伴い、当初選択必修科目として配置していた「プログラミング入門 I」と「プログラミング入門 II」及び「プログラミング演習」は、「社会情報系科目群」に移し、選択科目とする。

この必修の 2 科目のうち、「ICT リテラシ」は、これからのデジタル社会の一員として必要なツールの使用方法とセキュリティや倫理などの知識を学ぶ科目であり、入門レベルの科目として提供される。「ICT リテラシ」は情報デザイン学部の必修科目でもあり、多くの学生の履修が予想される。このため、クラス分けによる対応をとることとする。

「統計学基礎」は、人文社会科学のアカデミックな分野で必須能力となる、データ分析の手法を身につける基礎的な科目であり、さまざまなデータの集まりを正しく扱い、適切に分析し、検証・議論できるすべを学ぶ。国際文化学部の学科科目として新たに設けるもので、地域研究に必要な基礎的なデータ分析力の修得のために、文系学生に対応した丁寧な学修を行い、教育の質を担保する。

新			旧		
情報系 基礎科目	ICT リテラシ	2 単位	データサイエ ンス基礎科目	ICT リテラシ	2 単位
	統計学基礎	2 単位		プログラミング入門 I	
		プログラミング入門 II			
		プログラミング演習			

(2) への対応：科目区分としての「データサイエンス系科目」の名称を改め、「社会情報系科目」とし、「データハンドリング」科目を新たに加えるとともに、表に示したとおり、履修方法の変更によって、より確実に国際文化学科の学生に必要な基礎的なデータ分析力が身に着くよう対応した。

新

社会情報系 科目 4単位以上	情報数学Ⅱ	2 単 位 以 上
	情報数学Ⅲ	
	プログラミング入門Ⅰ	
	プログラミング入門Ⅱ	
	プログラミング演習	
	統計学Ⅱ	
	地理情報システム	
	データハンドリング	
	マイクロ経済学	2 単 位 以 上
	企業データ論	
	マーケティング概論	
	計量経済分析	

旧

データサイエンス 系科目 4単位以上	情報数学Ⅱ	4 単 位 以 上
	情報数学Ⅲ	
	統計学Ⅰ	
	統計学Ⅱ	
	地理情報システム	
	マイクロ経済学	
	企業データ論	
	マーケティング概論	
	計量経済分析	



社会情報とは、社会科学と情報科学の両者をあわせた概念である。国際文化学部が必要とする社会情報系科目群は、社会科学によって社会実態を正しく把握して理解する力を養う科目と、情報科学によってデータ分析力を向上させる科目によって構成されている。より具体的には、社会情報系科目群には、本学科が目指すグローバルスタディーズの研究にとって有用な統計力やデータ処理能力の向上に資する科目が含まれている。

(1)への対応で示したように、統計学基礎を情報系基礎科目として全学生必修の科目とした。より高度なデータ分析能力の修得のために、レベル別のプログラミングの3科目(「プログラミング入門Ⅰ」、「プログラミング入門Ⅱ」、「プログラミング演習」)と「統計学Ⅱ」を履修できるようにしている。なおこれは、「情報数学Ⅱ」、「情報数学Ⅲ」で提供する微積分や行列の知識が必要である。そして、先に説明したように、「地理情報システム」は、地理空間上の位置に結び付けて様々なデータを扱うGISの原理とそのデータの可視化技術について講義する、地域研究に有用な科目である。さらに、データの前処理や加工、可視化、解析を講義するデータハンドリング科目を新たにここに加えた。同時に新設される情報デザイン学科には文系理系双方からの学生が見込まれており、これらの科目は、通常より長い時間をとって文系学生にもわかりやすく講義される。

また、地域研究の調査によって集められるデータの多くは社会実態の実証に有用なものであり、学生は広く経営・経済に関わる事象やデータが意味するところを理解しなければならない。「マーケティング概論」や「企業データ論」、「マイクロ経済学」、「計量経済分析」などはそのための分析視角を提供する科目群であり、課題発見能力の涵養にも役立つ。これらの科目の学修によってもCP2-2の「データ利用の基礎的能力を身につけること」ができると考えているが、しかし、指摘のとおり、この2科目(「マイクロ経済学」と「マーケティング概論」)の修得だけで必要とされる4単位を充たすことも可能であるため、より明確にCPに対応した教育課程とするため、「社会情報系科目(旧データサイエンス系科目)から4単位以上取得」としていた卒業要件を上記の表のとおり変更する。つまり、科目群をさらに二つに分類し、それぞれから1科目2単位以上の履修を求めることとする。

以上の教育課程によって、国際文化学科の学生は、情報系基礎科目（必修）で「ICT リテラシ」を2単位、「統計学基礎」を2単位、社会情報系科目群のうちデータ分析力向上を目指す科目群から2単位、それ以外の社会科学系科目群から2単位の合わせて最低8単位を修得することができる。こうして、日本を含む海外諸地域を深く掘り下げる地域研究を目指し、国際社会と地域社会で活躍できる人材養成を目指す国際文化学科において、「データ利用の基礎的能力を身につけることができ（CP2-2）」、「社会情報系科目の学びを活用し、専門的な手法によって深く考察し、判断し、簡潔に他者に伝える力を身につけている（DP2）」人材を送り出すことが可能となる。

(新旧対照表) 基本計画書 1 ページ

新	旧
<p>新設学部等の目的： グローバル化が進み、多様な価値観が共存する現代、ローカルにもグローバルにも異文化の相互理解と他者との協働が重要となっている。国内外社会の平和かつ安定的発展のために必要な諸理論と実際を学ぶとともに、日本文化を深く理解し、自らのアイデンティティを確立したうえで、対外発信する能力の涵養も不可欠である。</p> <p>国際文化学部国際文化学科では、加えて、本学の教育理念によるリベラルアーツを基盤に、実用的な語学力を身につけ、さらには<u>基礎的なデータ利用のリテラシー</u>による文理横断的な視座を身につけることも可能とし、ローカルにもグローバルにも持続的な発展に貢献する人材を育成する。</p>	<p>新設学部等の目的 グローバル化が進み、多様な価値観が共存する現代、ローカルにもグローバルにも異文化の相互理解と他者との協働が重要となっている。国内外社会の平和かつ安定的発展のために必要な諸理論と実際を学ぶとともに、日本文化を深く理解し、自らのアイデンティティを確立したうえで、対外発信する能力の涵養も不可欠である。</p> <p>国際文化学部国際文化学科では、加えて、本学の教育理念によるリベラルアーツを基盤に、実用的な語学力を身につけ、さらには<u>基礎的な数理・データサイエンスのリテラシー</u>による文理横断的な視座を身につけることも可能とし、ローカルにもグローバルにも持続的な発展に貢献する人材を育成する。</p>

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (基本計画書 6~8 ページ)

(新)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
略																
基礎科目	情報系基礎科目	ICTリテラシ	1前	2		○								兼3	共同	
		_____	—	—		—								—	—	
		_____	—	—		—								—	—	
		_____	—	—		—								—	—	
		統計学基礎	1後	2		○									兼1	
略																
学科科目	社会情報系科目	情報数学Ⅱ	1前	2		○								兼1		
		情報数学Ⅲ	1後	2		○								兼1		
		プログラミング入門Ⅰ	1前	2			○							兼2	共同	
		プログラミング入門Ⅱ	1前	2			○							兼2	共同	
		プログラミング演習	1後	2			○							兼3	共同	
		_____	—	—		—								—		
		統計学Ⅱ	2前	2		○									兼1	
		地理情報システム	2後	2		○									兼1	
		データハンドリング	2前	2		○									兼1	
		ミクロ経済学	2前	2		○									兼1	
		企業データ論	3前	2		○									兼1	
		マーケティング概論	3後	2		○									兼1	
		計量経済分析	3後	2		○									兼1	
略																
卒業要件及び履修方法																
(前略)																
<p>【学科科目】 (基礎科目から16単位、専攻科目から62単位以上を修得)</p> <p>・基礎科目においては専門基礎科目を12単位必修、情報系基礎科目「ICTリテラシ」「統計学基礎」4単位を必修とする。</p>																
(中略)																
<p>「研究演習Ⅰ」と「研究演習Ⅱ」は計4単位を必修とする。</p> <p>「卒業研究」は4単位を必修とする。</p> <p>社会情報系科目のうち「情報数学Ⅱ」「情報数学Ⅲ」「プログラミング入門Ⅰ」「プログラミング入門Ⅱ」「プログラミング演習」「統計学Ⅱ」「地理情報システム」「データハンドリング」から2単位、「ミクロ経済学」「企業データ論」「マーケティング概論」「計量経済分析」から2単位を選択必修とする。</p>																
<p>○履修科目の登録上限</p> <p>各年次の履修登録科目の上限は、1年間49単位とする。</p>																

(旧)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
略																
基礎科目	データサイエンス基礎科目	ICTリテラシ	1前	2		○								兼3	共同	
		プログラミング入門Ⅰ	1前	2			○							兼2	共同	
		プログラミング入門Ⅱ	1前	2			○							兼2	共同	
		プログラミング演習	1後	2			○							兼4	共同	
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
略																
学科科目	データサイエンス系科目	情報数学Ⅱ	1前	2		○								兼2		
		情報数学Ⅲ	1後	2		○								兼2		
		統計学Ⅰ	1後	2		○								兼1		
		統計学Ⅱ	2前	2		○								兼2		
		地理情報システム	2後	2		○								兼1		
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		ミクロ経済学	2前	2		○								兼1		
		企業データ論	3前	2		○								兼1		
		マーケティング概論	3後	2		○								兼1		
計量経済分析	3後	2		○								兼1				
略																
卒業要件及び履修方法																
<p>(前略)</p> <p>【学科科目】(基礎科目から14単位以上、専攻科目から64単位以上を修得) ・基礎科目においては専門基礎科目を12単位必修、データサイエンス基礎科目から2単位を選択必修とする。</p> <p>(中略)</p> <p>「研究演習Ⅰ」と「研究演習Ⅱ」は計4単位を必修とする。 「卒業研究」は4単位を必修とする。 <u>データサイエンス系科目から4単位を選択必修とする。</u></p> <p>○履修科目の登録上限 各年次の履修登録科目の上限は、1年間49単位とする。</p>																

(新旧対照表) 授業科目の概要 (基本計画書 30 ページ)

新	旧
科目区分： <u>情報系基礎科目</u>	科目区分： <u>データサイエンス基礎科目</u>
授業科目の名称：ICT リテラシ <u>統計学基礎</u>	授業科目の名称：ICT リテラシ <u>プログラミング入門Ⅰ</u> <u>プログラミング入門Ⅱ</u> <u>プログラミング演習</u>

(新旧対照表) 授業科目の概要 (基本計画書 30 ページ)

新	旧
授業科目の名称： <u>統計学基礎</u> 講義等の内容： 本講義では、 <u>データを統計的に分析するための各種手法を講義する。まず、グラフ等によるデータの可視化、平均・分散などのデータ分析、複数のデータ間の相関関係の強さや将来予測を行うための各種手法を表計算ソフトを用いて説明する。次に、統計的問題解決のプロセスを理解し、実験と観察によるデータ収集法と統計的推定や検定の具体的な方法論を学び、その意味と意義、特徴と限界を知る。人文・社会科学の実例を豊富に用いて理解を深める。</u>	(新規)

(新旧対照表) 授業科目の概要 (基本計画書 39～40 ページ)

新	旧
科目区分： <u>社会情報系科目</u> 授業科目の名称：情報数学Ⅱ 情報数学Ⅲ <u>プログラミング入門Ⅰ</u> <u>プログラミング入門Ⅱ</u> <u>プログラミング演習</u> 統計学Ⅱ 地理情報システム <u>データハンドリング</u> ミクロ経済学 企業データ論	科目区分： <u>データサイエンス系科目</u> 授業科目の名称：情報数学Ⅱ 情報数学Ⅲ <u>統計学Ⅰ</u> 統計学Ⅱ ミクロ経済学 地理情報システム 企業データ論 マーケティング概論 計量経済分析

マーケティング概論 計量経済分析	
---------------------	--

(新旧対照表) 学則 別表 3 18 ページ

国際文化学部国際文化学科における人材育成等の目的

新	旧
<p>本学部は、本学のキリスト教精神に基づく教育理念を踏まえて、グローバル社会を分析対象とする諸理論の基本と諸地域の実態を、学際的手法によって講究するとともに、表象文化の学びを通じて日本文化を深く理解して自らのアイデンティティを確立し、グローバルな思考と視座から、<u>社会情報系科目</u>の学びを活用して社会の諸問題をグローバルに改善・解決し、社会の平和と持続的な発展に貢献する人材の育成を目指す。</p>	<p>本学部は、本学のキリスト教精神に基づく教育理念を踏まえて、グローバル社会を分析対象とする諸理論の基本と諸地域の実態を、学際的手法によって講究するとともに、表象文化の学びを通じて日本文化を深く理解して自らのアイデンティティを確立し、グローバルな思考と視座から、<u>データサイエンスと統計処理の能力</u>を活用して社会の諸問題をグローバルに改善・解決し、社会の平和と持続的な発展に貢献する人材の育成を目指す。</p>

(新旧対照表) 学則別表XI 39 ページ

国際文化学部国際文化学科 学科科目

(新)

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	基礎演習	2	
	グローバル社会論基礎	2	
	多文化共生論基礎	2	
	Intensive English	2	
	導入演習	2	
	表象文化論基礎	2	
情報系基礎科目	ICTリテラシ	2	
	統計学基礎	2	

(旧)

科目区分	授業科目	履修単位	備考
基礎科目	基礎演習	2	
	グローバル社会論基礎	2	
	多文化共生論基礎	2	

		Intensive English	2	
		導入演習	2	
		表象文化論基礎	2	
	<u>データサイエンス</u> 基礎科目	ICTリテラシ	2	
		<u>プログラミング入門Ⅰ</u>	<u>2</u>	
		<u>プログラミング入門Ⅱ</u>	<u>2</u>	
		<u>プログラミング演習</u>	<u>2</u>	

(新旧対照表) 学則別表XI 40 ページ

国際文化学部国際文化学科 学科科目

(新)

科目区分	授業科目	履修単位	備考
社会情報系科目	情報数学Ⅱ	2	
	情報数学Ⅲ	2	
	<u>プログラミング入門Ⅰ</u>	<u>2</u>	
	<u>プログラミング入門Ⅱ</u>	<u>2</u>	
	<u>プログラミング演習</u>	<u>2</u>	
	統計学Ⅱ	2	
	地理情報システム	2	
	<u>データハンドリング</u>	<u>2</u>	
	ミクロ経済学	2	
	企業データ論	2	
	マーケティング概論	2	
	計量経済分析	2	

(旧)

科目区分	授業科目	履修単位	備考
<u>データサイエンス系</u> 科目	情報数学Ⅱ	2	
	情報数学Ⅲ	2	
	<u>統計学Ⅰ</u>	<u>2</u>	
	統計学Ⅱ	2	
	地理情報システム	2	
	ミクロ経済学	2	
	企業データ論	2	
	マーケティング概論	2	
	計量経済分析	2	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した文書 4 ページ

新	旧
<p>国際文化学科では、本学の教育理念によるリベラル・アーツを基盤に、グローバル社会を深く理解するための三つの主たる学問体系（グローバル社会を理解するための諸理論、多文化共生論、表象文化論）の基礎理論を固めたうえで、実用的な語学力や基礎的なデータ利用のリテラシーによる文理横断的な視座も身につけ、地域を深く知り、課題を発見し、解決する能力を身につけた人材を養成する。あわせて、表象文化の学びを通じた日本文化への深い理解と発信に関する知識や能力を備えた人材を養成し、グローバルにもローカルにも持続的かつ平和的な発展に貢献する人材を育成する。</p>	<p>国際文化学科では、本学の教育理念によるリベラル・アーツを基盤に、グローバル社会を深く理解するための三つの主たる学問体系（グローバル社会を理解するための諸理論、多文化共生論、表象文化論）の基礎理論を固めたうえで、実用的な語学力や基礎的なデータサイエンスのリテラシによる文理横断的な視座も身につけ、地域を深く知り、課題を発見し、解決する能力を身につけた人材を養成する。あわせて、表象文化の学びを通じた日本文化への深い理解と発信に関する知識や能力を備えた人材を養成し、グローバルにもローカルにも持続的かつ平和的な発展に貢献する人材を育成する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 4 ページ

新	旧
<p>DP1. 知識・技能 グローバル社会を生き抜くために英語力に磨きをかけ、さらにもう一つの言語に挑戦して実用的な語学力を身につけている。グローバル社会系諸理論、多文化共生系諸理論を総合的に習得するとともに、表象文化系科目群の学びを通じて日本文化を相対的かつ客観的に理解して自らのアイデンティティを確立している。</p> <p>DP2. 思考力・判断力・表現力等の能力 国際理解に関わる様々な領域の理論を学際的に修得し、国内外特定地域の特質を深く探求する積極性と行動力をもち、さらに社会情報系科目の学びを活用し、専門的な手法によって深く考察し、判断し、簡潔に他者に伝える力を身につけている。</p> <p>DP3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 国内外社会におけるグローバルな課題を意</p>	<p>DP1. 知識・技能 グローバル社会を生き抜くために英語力に磨きをかけ、さらにもう一つの言語に挑戦して実用的な語学力を身につけている。グローバル社会系諸理論、多文化共生系諸理論を総合的に習得するとともに、表象文化系科目群の学びを通じて日本文化を相対的かつ客観的に理解して自らのアイデンティティを確立している。</p> <p>DP2. 思考力・判断力・表現力等の能力 国際理解に関わる様々な領域の理論を学際的に修得し、国内外特定地域の特質を深く探求する積極性と行動力をもち、さらにデータサイエンス系科目の学びを活用し、専門的な手法によって深く考察し、判断し、簡潔に他者に伝える力を身につけている。</p> <p>DP3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 国内外社会におけるグローバルな課題を意</p>

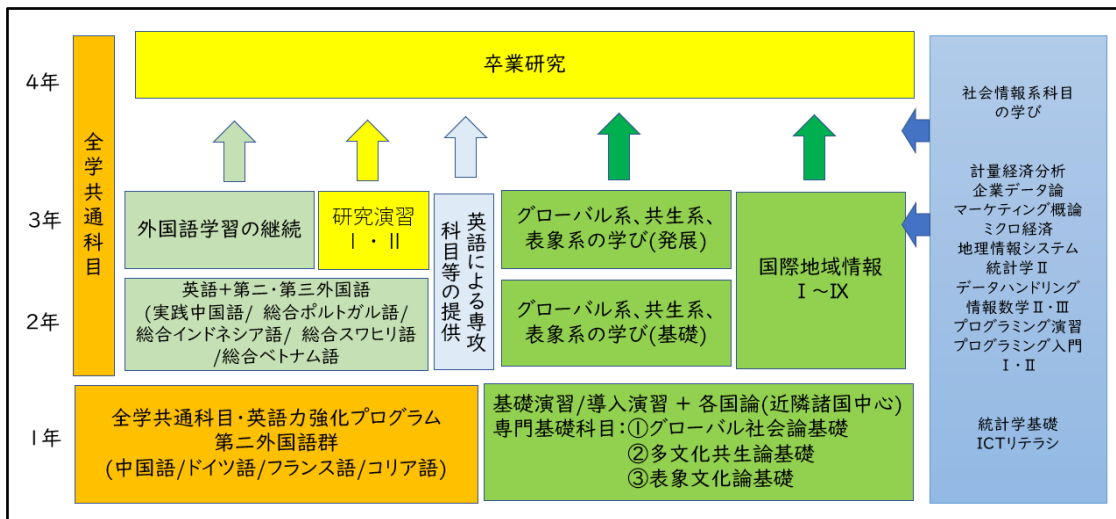
識しており、人と協働しながら課題解決を行う能力を身につけている。	識しており、人と協働しながら課題解決を行う能力を身につけている。
----------------------------------	----------------------------------

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 5 ページ

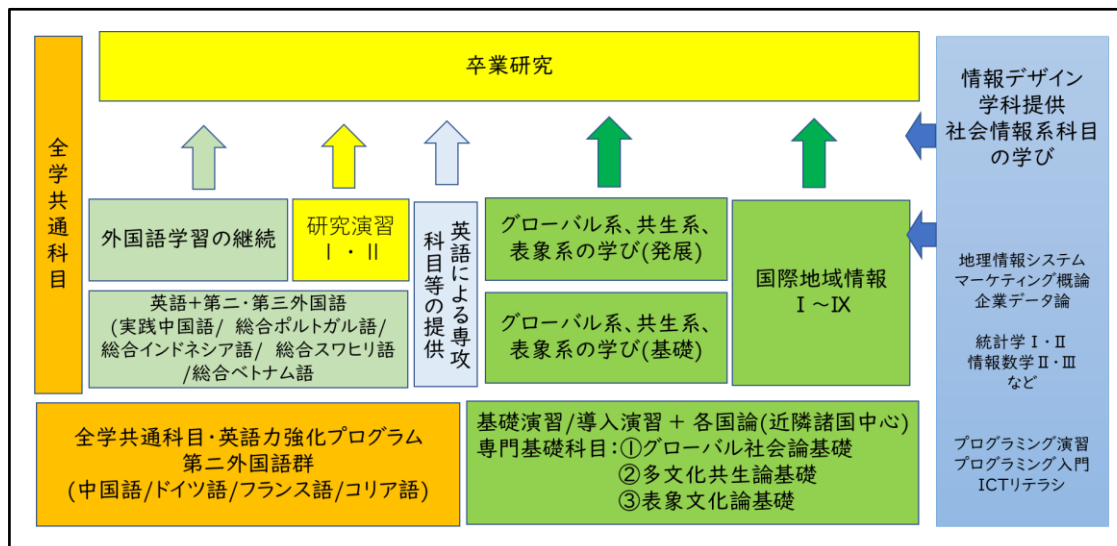
新	旧
<p>2) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>以上の学修成果の目標達成のために図のような教育課程編成をとる。<u>また、一部情報デザイン学科提供のデータ系科目及び社会科学系科目として、情報系基礎科目と社会情報系科目を設ける。</u></p>	<p>2) 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>以上の学修成果の目標達成のために図のような教育課程編成をとる。</p>

設置の趣旨等を記載した書類 5 ページ 学生の確保の見通し等を記載した書類 7 ページ

(新)



(旧)



新	旧
<p>CP1. 知識・技能</p> <p>学科の「基礎科目」の履修によりグローバル社会論、多文化共生論、表象文化論の各学問領域の概要を知り、「専攻科目」として段階的に配置されたそれらの発展科目やグローバルスタディーズ科目の履修を通じて国際理解力を身につけるとともに、日本文化の国際発信力を磨くことができる。専攻科目には英語によって教授される「英語展開科目」群、英語力向上科目と外国語科目からなる「実践外国語科目」群が配され、そこから一定単位以上の履修が求められる。英語で学ぶ科目と英語を学ぶ科目の履修により英語力を身につけることができる。</p> <p>CP2. 思考力・判断力・表現力等の能力</p> <p>基礎演習や導入演習ではアカデミックな情報収集の方法と表現力の基礎を学び、少人数編成の研究演習、卒業研究では、集めた資料やデータを適切に処理し、説得的に表現するプレゼンテーション能力を身につける。<u>情報系基礎科目、社会情報系科目群</u>の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることができる。</p> <p>CP3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度</p> <p>国内外研修プログラムや国際交流現場体験プログラムの履修により実地での見聞を広めるとともに、学修中盤期以降での国際地域情報 I～IXの選択的履修により、志を同じくする仲間とともに日本を含む国内外の特定地域を深く学修し、研究演習 I・II、卒業研究を通じ、グループワークを実践し、課題を発見し、解決する能力を培うとともに、協働活動能力を修得することができる。以上のカリキュラムを提供する学生については、以下のアドミッション・ポリシーを</p>	<p>CP1. 知識・技能</p> <p>学科の「基礎科目」の履修によりグローバル社会論、多文化共生論、表象文化論の各学問領域の概要を知り、「専攻科目」として段階的に配置されたそれらの発展科目やグローバルスタディーズ科目の履修を通じて国際理解力を身につけるとともに、日本文化の国際発信力を磨くことができる。専攻科目には英語によって教授される「英語展開科目」群、英語力向上科目と外国語科目からなる「実践外国語科目」群が配され、そこから一定単位以上の履修が求められる。英語で学ぶ科目と英語を学ぶ科目の履修により英語力を身につけることができる。</p> <p>CP2. 思考力・判断力・表現力等の能力</p> <p>基礎演習や導入演習ではアカデミックな情報収集の方法と表現力の基礎を学び、少人数編成の研究演習、卒業研究では、集めた資料やデータを適切に処理し、説得的に表現するプレゼンテーション能力を身につける。<u>データサイエンス系科目群</u>の学びによってデータ利用の基礎的能力を身につけることもできる。</p> <p>CP3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度</p> <p>国内外研修プログラムや国際交流現場体験プログラムの履修により実地での見聞を広めるとともに、学修中盤期以降での国際地域情報 I～IXの選択的履修により、志を同じくする仲間とともに日本を含む国内外の特定地域を深く学修し、研究演習 I・II、卒業研究を通じ、グループワークを実践し、課題を発見し、解決する能力を培うとともに、協働活動能力を修得することができる。以上のカリキュラムを提供する学生については、以下のアドミッション・ポリシーを</p>

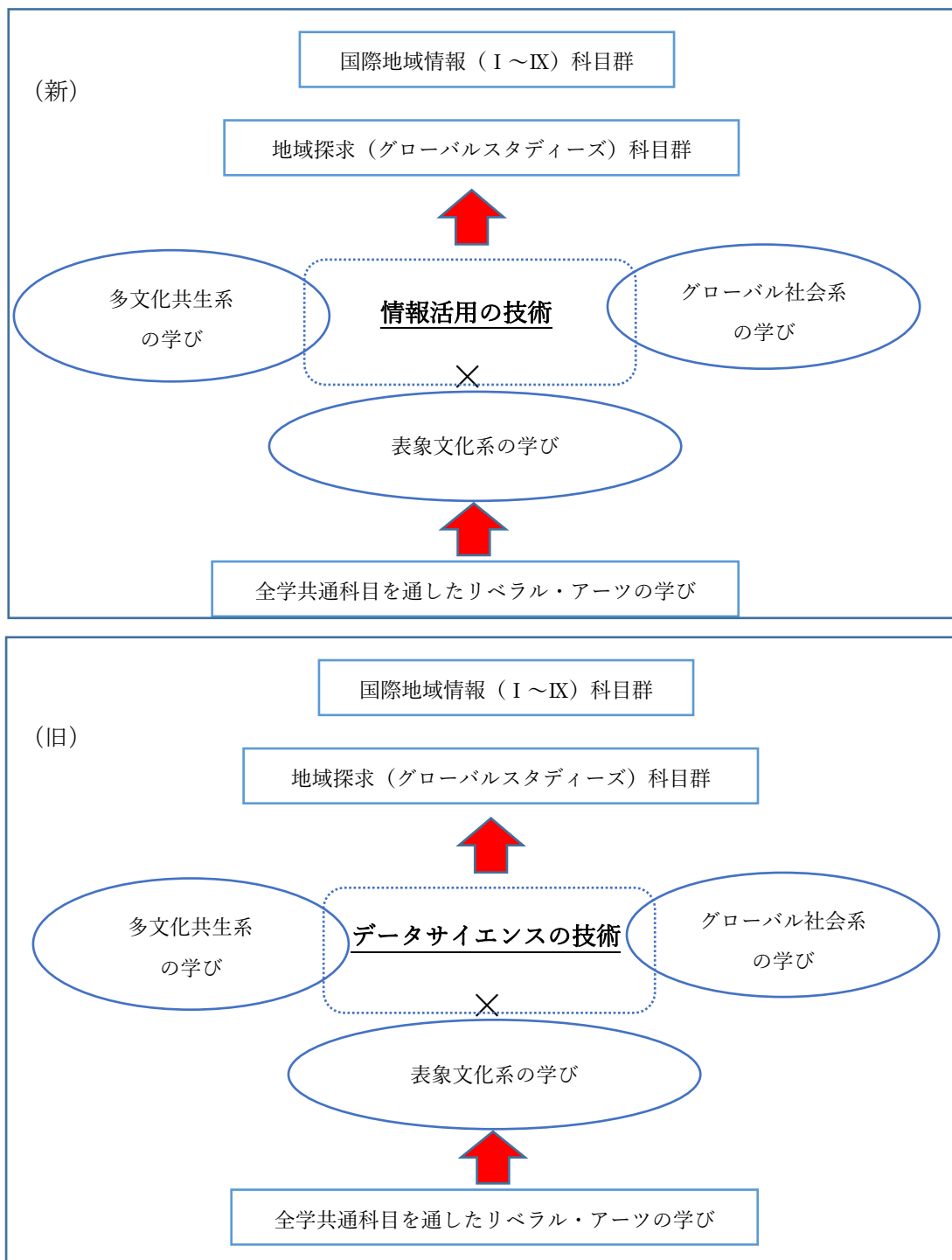
適用する。

適用する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 7ページ

② 学部・学科等の特色

(1) グローバル社会を理解するために学際的な教育を提供する。



(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 11～12 ページ

新	旧
<p>(3) 学科専門教育の編成及び実施体制</p> <p>1) 基礎科目</p> <p>国際文化学科に基礎科目を設けて、本学科の三つの主軸学問領域となる「グローバル社会論基礎」、「多文化共生論基礎」、「表象文化論基礎」、人文社会科学の読み書きそろばんにあたる「基礎演習」、「導入演習」、これまで積み上げてきた英語力を集中的に補強する「Intensive English」、基礎的な情報系科目としての「ICT リテラシ」、「統計学基礎」の8科目を配置する。</p>	<p>(3) 学科専門教育の編成及び実施体制</p> <p>1) 基礎科目</p> <p>国際文化学科に基礎科目を設けて、本学科の三つの主軸学問領域となる「グローバル社会論基礎」、「多文化共生論基礎」、「表象文化論基礎」、人文社会科学の読み書きそろばんにあたる「基礎演習」、「導入演習」、これまで積み上げてきた英語力を集中的に補強する「Intensive English」、基礎的な情報科目としての「ICT リテラシ」、「プログラミング入門Ⅰ」、「プログラミング入門Ⅱ」、「プログラミング演習」の10科目を配置する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 14 ページ

新	旧
<p>7 社会情報系科目</p> <p>情報デザイン学部開講科目のうち、<u>情報数学Ⅱ、情報数学Ⅲ、プログラミング入門Ⅰ、プログラミング入門Ⅱ、プログラミング演習、統計学Ⅱ、地理情報システム、データハンドリング、マイクロ経済学、企業データ論、マーケティング概論、計量経済分析の12科目</u>を学科科目として履修できる。</p>	<p>7 <u>データサイエンス系科目</u></p> <p>情報デザイン学部開講科目のうち、<u>情報数学Ⅱ、情報数学Ⅲ、統計学Ⅰ、統計学Ⅱ、マイクロ経済学、地理情報システム、企業データ論、マーケティング概論、計量経済分析の9科目</u>を学科科目として履修できる。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 15 ページ

新	旧
<p>2) 学科専門教育と単位数・必修と選択・履修順序の考え方</p> <p>学科科目は「基礎科目」と「専攻科目」に分け、両領域から合わせて78単位以上の修得を求めている。「基礎科目」として基礎演習、導入演習、グローバル社会論基礎、多文化共生論基礎、表象文化論基礎、Intensive English (夏休み集中) の6科目12単位を必修とし、ほかに ICT リテラシ、統計学基</p>	<p>2) 学科専門教育と単位数・必修と選択・履修順序の考え方</p> <p>学科科目は「基礎科目」と「専攻科目」に分け、両領域から合わせて78単位以上の修得を求めている。「基礎科目」として基礎演習、導入演習、グローバル社会論基礎、多文化共生論基礎、表象文化論基礎、Intensive English (夏休み集中) の6科目12単位を必修とし、ほかに ICT リテラシ、プログラ</p>

<p>礎の2科目から4単位を必修とし、合わせて16単位の履修を求める。</p> <p>(中略)</p> <p>全学共通科目では必修になっていない情報科目については、全員が2単位を選択必修として履修し、<u>リテラシーとしての情報の基礎を身につけることとする。</u></p>	<p>ミング入門Ⅰ、プログラミング入門Ⅱ、プログラミング演習の4科目から1科目2単位を選択必修とし、合わせて14単位の履修を求める。</p> <p>(中略)</p> <p>全学共通科目では必修になっていない情報科目については、全員が2単位を選択必修として履修し、<u>データサイエンスの基礎を身につけることとする。</u></p>
---	---

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 16～17 ページ

新	旧
<p>(2) 卒業要件</p> <p>卒業に必要な単位を124単位以上とする。このうち、全学共通科目は30単位以上、<u>学科科目は78単位以上の修得が必要となる。</u>学科科目のうち、必修科目は11科目、<u>選択科目は73科目用意される。</u>学科科目は基礎科目と専攻科目に分かれ、<u>基礎科目の「基礎演習」、「導入演習」、「グローバル社会論基礎」、「多文化共生論基礎」、「表象文化論基礎」、「Intensive English」、「ICTリテラシー」「統計学基礎」、</u>専攻科目の「研究演習Ⅰ」、「研究演習Ⅱ」、「卒業研究」を必修としている。<u>専攻科目のコア科目群「グローバル社会系」「多文化共生系」「表象文化系」からそれぞれ4単位以上で合わせて12単位以上、「グローバルスタディーズ科目」から10単位以上、「英語展開科目」と「実践外国語科目」からあわせて10単位以上、「社会情報系科目」からは4単位以上の履修が求められている。</u></p>	<p>(2) 卒業要件</p> <p>卒業に必要な単位を124単位以上とする。このうち、全学共通科目は30単位以上、<u>学科科目の必修科目が9科目で20単位、選択科目数は74科目用意され、そのうち58単位(29科目)以上の履修、合わせて78単位以上の履修を必要とする。</u>基礎科目の「基礎演習」、「導入演習」、「グローバル社会論基礎」、「多文化共生論基礎」、「表象文化論基礎」、「Intensive English」、専攻科目の「研究演習Ⅰ」、「研究演習Ⅱ」、「卒業研究」を必修科目としている。コア科目群「グローバル社会系」「多文化共生系」「表象文化系」からそれぞれ4単位以上で合わせて12単位以上、「グローバルスタディーズ科目」から10単位以上、「英語展開科目」と「実践外国語科目」からあわせて10単位以上、「<u>データサイエンス系科目</u>」からは<u>4単位以上(10単位以内)</u>の履修が求められている。</p>

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 5～7 ページ

新	旧
<p>ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等</p> <p>① 国際文化学部の趣旨目的、教育内容に</p>	<p>ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等</p> <p>① 国際文化学部の趣旨目的、教育内容に</p>

<p>ついて (中略)</p> <p>また、本学の教育理念によるリベラル・アーツを基盤に、実用的な語学力を身につけ、さらには<u>基礎的なデータ利用</u>のリテラシーによる文理横断的な視座を身につけることも可能とし、グローバルにもローカルにも持続的かつ平和的な発展に貢献する人材を育成する。</p> <p>近年、ICTと輸送手段の著しい発展に支えられて経済活動のグローバル化が急速に進展するとともに、あらゆる社会システムが急激に、複雑に変化している。この変化に伴う諸問題の改善・解決に直面し、多文化の理解と共生の必要性が高まり、その基底をなす地域研究の重要性が増している。また、この諸問題の改善・解決には<u>基礎的なデータ処理能力</u>が求められる。</p> <p>(中略)</p> <p>それぞれの系での学びの科目構成は、①グローバル社会系科目：国際法、国際関係論、国際経済、平和学、国際社会学等、②多文化共生系科目：グローバル化と人の移動、華僑華人論、言語文化論、多文化共生論、ジェンダーと平等・差異、多文化共生政策等、③表象文化系科目：身体表象論、メディア論、日本文化論、宗教人類学、文学と芸術等となっている。この三つの学び(①～③)を身につけ、さらに世界の様々な地域(日本・欧州・米州・北東アジア・東南アジア・環太平洋・アフリカ)を深く知る国際地域系科目を設け、専門性の獲得を目指している。そして、<u>データ利用</u>のリテラシーの<u>情報系基礎科目として統計学基礎等、社会情報系科目として情報数学、地理情報システム、企業データ論等を設けている。</u></p> <p>(中略)</p> <p>また、地域研究に要する言語のうち学生が比較的馴染みやすいインドネシア語、ベト</p>	<p>ついて (中略)</p> <p>また、本学の教育理念によるリベラル・アーツを基盤に、実用的な語学力を身につけ、さらには<u>基礎的な数理・データサイエンス</u>のリテラシーによる文理横断的な視座を身につけることも可能とし、グローバルにもローカルにも持続的かつ平和的な発展に貢献する人材を育成する。</p> <p>近年、ICTと輸送手段の著しい発展に支えられて経済活動のグローバル化が急速に進展するとともに、あらゆる社会システムが急激に、複雑に変化している。この変化に伴う諸問題の改善・解決に直面し、多文化の理解と共生の必要性が高まり、その基底をなす地域研究の重要性が増している。また、この諸問題の改善・解決には<u>データサイエンスと統計処理能力</u>が求められる。</p> <p>(中略)</p> <p>それぞれの系での学びの科目構成は、①グローバル社会系科目：国際法、国際関係論、国際経済、平和学、国際社会学等、②多文化共生系科目：グローバル化と人の移動、華僑華人論、言語文化論、多文化共生論、ジェンダーと平等・差異、多文化共生政策等、③表象文化系科目：身体表象論、メディア論、日本文化論、宗教人類学、文学と芸術等となっている。この三つの学び(①～③)を身につけ、さらに世界の様々な地域(日本・欧州・米州・北東アジア・東南アジア・環太平洋・アフリカ)を深く知る国際地域系科目を設け、専門性の獲得を目指している。そして、<u>データサイエンス</u>のリテラシーの<u>科目として、プログラミング、情報数学、統計学、地理情報システム等を設けている。</u></p> <p>(中略)</p> <p>また、地域研究に要する言語のうち学生が比較的馴染みやすいインドネシア語、ベト</p>
---	--

ナム語、ポルトガル語の学習機会を設ける。 これらで構成されるカリキュラムにより、 国際地域研究や卒業研究において、多様な アプローチによる追究が可能となる。	ナム語、ポルトガル語の学習機会を設ける。 そして、 <u>データサイエンスのリテラシーの</u> <u>科目を履修し国際地域研究や卒業研究に活</u> <u>用できるカリキュラムとなっている。</u>
---	---

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 21 ページ

新	旧
2) 国際文化学科の人材養成に関する目的 国際文化学科では、本学の教育理念による リベラル・アーツを基盤に、実用的な語学 力を身につけ、さらには基礎的な <u>データ利</u> <u>用</u> のリテラシーによる文理横断的な視座を 身につけることも可能とし、グローバルに もローカルにも持続的かつ平和的な発展に 貢献する人材を育成する。	2) 国際文化学科の人材養成に関する目的 (中略) 国際文化学科では、本学の教育理念による リベラル・アーツを基盤に、実用的な語学 力を身につけ、さらには <u>基礎的な数理・デ</u> <u>ータサイエンス</u> のリテラシーによる文理横 断的な視座を身につけることも可能とし、 グローバルにもローカルにも持続的かつ平 和的な発展に貢献する人材を育成する。

(他の変更箇所)

(資料1) 国際文化学部国際文化学科

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの
関連図

(資料2) 国際文化学部国際文化学科 カリキュラムマップ

(資料3) 国際文化学部国際文化学科 カリキュラムツリー

(資料4) 国際文化学部国際文化学科 カリキュラムマトリックス

(資料5) 国際文化学部国際文化学科 履修モデル1 (グローバル社会モデル)

(資料6) 国際文化学部国際文化学科 履修モデル2 (多文化共生モデル)

(資料7) 国際文化学部国際文化学科 履修モデル3 (表象文化モデル)

(是正事項) 国際文化学部 国際文化学科

【教員組織】

3. 教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、主要授業科目は原則として専任の教授又は准教授が担当することとなっていることを踏まえ、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

(対応) 審査意見 3

すべての科目について「適格な職位・区分であれば可」となっている者については審査意見を踏まえ、「教授」を「准教授」として対応する。

(新旧対照表) 基本計画書 1 ページ

新	旧
教員組織 国際文化学部国際文化学科 完成年度：教授 7 人 准教授 2 人 開設時：教授 4 人 准教授 2 人	教員組織 国際文化学部国際文化学科 完成年度：教授 8 人 准教授 1 人 開設時：教授 5 人 准教授 1 人

4. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性の観点から、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応) 審査意見 4

教職員就業規則第 19 条 2 項において、教授について、学科、専攻、大学院の課程の新設等、特段の事情がある場合の任用期間については、理事会の議を経た者に限り、特段の事情が達成あるいは解消されて最初の 3 月 31 日までで定期雇用教員として雇用することがある、と規定されている。また、希望した教授を除く教員は、満 65 歳の最初の 3 月 31 日までの再雇用と、規定されている (同条 1 項)。

専任教員の年代別人員とその比率を下の表に示した。ご指摘のように、開設予定の令和 6 年度に 65 歳以上が 4 人 (約 36%) と年齢構成が高齢に偏っている。また、完成年度の令和 9 年度には、65 歳以上の比率は開設時と変わらず約 36% であるが、50 歳代までの比率が開設時の 54% から約 46% に低下して、さらに高年齢層の比率が高くなる。

この年齢構成の偏りを大学設置基準に規定された教授数と教育研究の継続性の観点から、そして年齢構成のバランスに配慮して、令和 9 年度退職予定 4 人の後任人事を同年度に公募等により実施し、教育研究業績、保有学位、専攻分野と授業科目の教育歴、教育研究に関する抱負等を総合的に評価し、若手教員 4 名を令和 10 年度 4 月から採用して年齢構成の偏りを是正するとともに教育研究の質の維持向上を図る。

令和 9 年度退職予定者の職位、保有学位、専攻分野、担当授業科目名は下の資料に示した。

完成年度退職予定専任教員の保有学位、専攻分野、担当授業科目

専任等区分	職位	年齢		保有学位	専攻分野	主な担当授業科目
		着任年度	完成年度			
専	教授	67	70	博士 (文学)	地理学・歴史学 (東洋史)	Studies of Multiculturalism アジア経済史 国内外研修プログラム 華僑華人論、国際地域情報 VI Economic History 研究演習 I・II、卒業研究
専	教授	65	67	文学修士	地理学・歴史学 (東洋史)	表象文化論基礎 国際地域情報 III メディア論 研究演習 I・II、卒業研究
専	教授	65	67	学術修士	政治学 (国際関係)	グローバル社会論基礎 Studies of Globalization 国際関係論、平和学 ジェンダーと平等・差異 研究演習 I・II、卒業研究
専	教授	65	68	Ph.D (英国)	比較文化学	表象文化論基礎、日本文化論 Cultural Representation Studies 国際地域情報 I 日英比較文学史、 研究演習 I・II、卒業研究